

# 鏡川流域パートナーシップだより No.44 R5.4.5



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

## 「タケノコ食べて放置竹林解決プロジェクト」のイベント開催！



鏡川流域内関係人口講座受講生の久保真希さんが、まちのコイン「ぼっちり」のスポット「**タケノコ食べて放置竹林解決プロジェクト**」を立ち上げて活動しています！久保さんは、鏡川上流域など中山間地域で課題となっている放置竹林問題に対して、「自分のように実際に竹林に入って整備できない人でも、『食べる』という消費者の視点で関わっていきたい」と考え、誰でも楽しめる活動に取り組んでいます。

4月2日(日)には、鏡川流域で桜を見ながらタケノコを食べるイベントが開催され、鏡川流域関係人口講座受講生を中心に参加者が集まりました。満開の桜を眺めながらタケノコ料理を味わったり、放置竹林の現状を見たりと、放置竹林問題に楽しくアプローチできる充実した内容でした！



久保さんは、「ぼっちり広報部」が毎週木曜 20 時からオンラインで開催している「まちのコイン『ぼっちり』を使ってみよう交流会」に参加し、体験チケットのアイデアを参加者と考えたり仲間を募ったりしながら活動を進めてきました。作成した体験チケットは、イベント参加者を募集したりお花見スポット情報を集めたりと、誰でも気軽に参加できるものばかりです！

鏡ダムの桜吹雪を眺めたあと、土佐山学舎下の鏡川河畔で桜を見ながらタケノコ料理をいただきました！鏡川の産直市で購入したタケノコの田舎寿司や参加者が持参したタケノコのおにぎりなど、様々なタケノコ料理を味わいながら、「美味しく・楽しく」タケノコを活用する方法を考えました。

また、地域の所有者の協力のもと、土佐山の竹林に実際に足を運び、放置竹林の現状を把握したあと、高く伸びきった竹の間に生えていた大きなタケノコを参加者で協力して掘って楽しみました！現場を実際に見ることで、放置竹林問題をより身近に感じることができたのではないのでしょうか。



掘ったタケノコは参加者が持ち帰り、家庭で調理して美味しくいただいたそうです♪

当日はオンラインでイベントの様子を中継し、遠方のユーザーとも交流しました。鏡川流域外関係人口講座受講生の川田玄一さんなど、久保さんが「まちのコイン『ぼっちり』を使ってみよう交流会」で交流を深めてきた人たちも多く参加していました。放置竹林問題の解決に向けて、今後も多様な人の関わりが生まれそうです！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android